

月刊

地域保健



●特集

喫煙対策と禁煙支援



●FACE 2008

宇座美代子さん

琉球大学医学部保健学科教授

FACE
2008

琉球大学医学部
保健学科教授

宇座美代子さん

伝統文化の維持継承が健康長寿を支える

沖縄のコミュニティ、ソーシャルサポート、死生観

photographs: Sei Kamiyasu

長寿神話にかけりがみえ、伝統的なコミュニティも崩れはじめている沖繩。保健学の立場から伝統文化の消失に警鐘を鳴らす琉球大学の宇座教授に、沖繩の現状についてお話をうかがいました。

寝たきりの人の家で ホームコンサート

—先生は、かつて沖繩の「ゆいまーる」の研究をされていましたが、そのことからお伺いします。

宇座 「ゆいまーる」というのは沖繩の方言で相互扶助、助け合いという意味です。「ゆいまーる」が地域の介護力としてどう機能するのかを県内の20歳以上の住民を対象に調査しました。「介護についてゆいまーるでできそうなことは？」との質問には、「声かけ」「庭の掃除」「送迎」などの回答があり、平均すると2割くらいの人が「ゆいまーるで介護ができる」と考えていました。

大宜味村（おおきみそん）というところでは、なんと6割の人が「ゆいまーるで介護ができる」と回答しましたが、

ここは健康長寿の村としてよく知られていて、高齢者の一人暮らしが5割を超えている地域です。一人暮らしの高齢者たちは、今日はAさんの家、明日はBさんの家というように集まって一緒に朝ごはんを食べながら、おしゃべりを楽しみ、お互いの健康を確認しあっています。反対に都市化が進んでいる地域ほど、「ゆいまーるで介護ができる」と思う数字が低くなる傾向にありました。長寿沖繩の神話が崩れ、その原因として食生活が問題になっていますが、私はそれに加えてソーシャルサポート、「ゆいまーる」のような伝統

文化が消えつつあることも影響していると思います。

—長寿沖繩を支えてきた伝統文化とは具体的に言うとうどんなことですか？

宇座 たとえば、沖繩の人はみんな集って遊ぶのが大好きです。お年寄りには遊ぶのがとてもまいので、沖繩のデイケアは利用者が踊ったりして賑やかです。他県から来た沖繩のデイケア利用者は「沖繩のデイケアは面白い」と言います。

沖繩市では社会福祉協議会が中心となって、寝たきりの人の家を芸能人が訪問し、地域の人も一緒に呼んでミニホームコンサートを開くという取り組みを行っています。こうすれば、寝たきりになっても社会とつながってられるわけです。

それから、宮古島のお年寄りの話で

p8

喫煙対策で今何が問題か

たばこと健康問題NGO協議会会長 島尾忠男

p14

地域におけるこれからのたばこ対策

連携の構築を目指して

国立保健医療科学院研究情報センター たばこ政策情報室室長 吉見逸郎

p18

子どもを取り巻くたばこ環境

周囲での喫煙は虐待の一つ

東京都葛飾区保健所所長 齋藤麗子

p28

学校敷地内禁煙と喫煙防止教育の充実を図るために

学校をタバコの無い場所に！

中京大学体育学部教授 家田重晴

p36

地域・医療・行政が連携して進めるタバコフリー

煙が・線になって・円になった

京都府立医科大学医学研究科 地域保健医療疫学講師 繁田正子

p46

海外におけるたばこ規制の動向

有効な対策は100%禁煙のみ

国立がんセンター研究所 たばこ政策研究プロジェクトリーダー 望月友美子

p51

京丹後市の「卒煙講座」の取り組み

動機付け・参加意識を高める禁煙プログラム

文・写真＝木山広実（フリーライター）

p62

神奈川県のとばこ対策

「神奈川県タバコ研究会」の発足と実効性ある活動

文＝編集部

p72

“タバコのないレストラン”を推進する**ココミグメサイト**

「禁煙スタイル」管理者・岩崎拓哉さん

文＝木山広実（フリーライター）

※表記については「たばこ」と「タバコ」を併用しています。

◎ 特集 ◎

喫煙対策と 禁煙支援

健康増進法施行後5年の 現状と課題

健康増進法で公共施設での受動喫煙防止対策が義務付けられ、禁煙スペースは着実に増えている。しかし男性の喫煙率は先進国の中では依然として高く、女性の喫煙率も20～30歳代で上昇傾向にある。今月は喫煙対策および禁煙支援について、さまざまな角度から取り上げる。腹囲に注目が集まっている今だからこそ、喫煙対策・禁煙支援の重要性を強調したい。



喫煙対策で 今何が問題か



たばこ健康問題NGO協議会会長

島尾忠男

はじめに

喫煙問題にかかわり始めた30年前に比べると、隔世の感があり、日本の喫煙対策も大きく様変わりをしてきたというのが実感である。まず、今までの主な出来事を経年的に振り返ってみよう。

- 1900 (明治33) 年 「未成年者喫煙禁止法」を制定
- 1964 (昭和39) 年 厚生省公衆衛生局長「喫煙と健康に関する衛生教育の徹底」を通知
- 1972 (昭和47) 年 弱い表現であるが、タバコの包装に健康への警告文言を表示
- 1978 (昭和53) 年 厚生省医務局長・国立病院、国立療養所での喫煙所の規制について通知
- 1984 (昭和59) 年

- ・「医療機関での喫煙の規制」について通知
- 1985 (昭和60) 年
 - ・専売制度廃止、タバコの製造と販売を民営化。「日本たばこ産業」発足
 - 1986 (昭和61) 年
 - ・東海道新幹線に禁煙車を設置
 - ・公衆衛生審議会に「喫煙と健康に関する専門委員会」を設置
 - 1987 (昭和62) 年
 - ・第6回「喫煙と健康世界会議」を東京で開催
 - ・厚生省「喫煙と健康に関する報告書」を公表
 - 1988 (昭和63) 年
 - ・輸入タバコの関税を撤廃
 - ・4月7日の世界保健デーを世界禁煙デーとしてキャンペーンを実施
 - 1989 (平成元) 年
 - ・WHOは5月31日の世界禁煙デーに指定してキャンペーンを開始
 - 1991 (平成3) 年
 - ・「たばこ健康問題NGO協議会」結成
 - 1992 (平成4) 年
 - ・厚生省は5月31日からの1週間を禁煙週間に設定、タバコと健康問題NGO協議会との共催で世界禁煙デーにシンポジウムを開催
 - 1993 (平成5) 年
 - ・厚生省「喫煙と健康問題に関する報告書」を改定
 - ・第3回「アジア太平洋タバコ対策会議」を大宮で開催
 - 1994 (平成5) 年
 - ・ニコレット医師の処方で使用可能となる
 - 1995 (平成7) 年
 - ・公衆衛生審議会が防煙、分煙、禁煙支援と節煙を中核とする「たばこ行動計画検討会報告書」を提出
 - 1996 (平成8) 年
 - ・労働省「職場における喫煙対策のガイドライン」公表
 - ・厚生省「公共の場所における分煙のあり方検討会報告書」公表
 - 1997 (平成9) 年
 - ・「厚生白書」に生活習慣病対策の一つとして喫煙対策を記載
 - ・人事院「公共職場における喫煙対策に関する指針」を公表
 - ・東京都「都における分煙推進のあり方」を公表
 - 1998 (平成10) 年
 - ・テレビでのたばこの銘柄広告を自主規制
 - ・厚生省「21世紀のたばこ対策検討会」開催
 - ・航空機内、国内線、国際線とも全面禁煙
 - 1999 (平成11) 年
 - ・厚生省「喫煙問題に関する実態調査」を実施

離島の

保健師活動に

チャレンジ！

日本の最西端・与那国島での2年、
その夢と課題

文・写真 西内雅雄（フリーライター）



与那国町保健指針



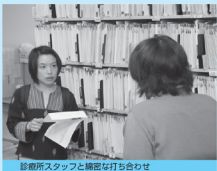
早朝6時25分に羽田空港を離陸した飛行機は3時間30分かけて石垣空港に着陸した。やれやれ、やっと着いたか。韓国に行くより遠いじゃないか。昔仲づをしながら降り立ったのもつかの間、30分ほどで次の搭乗案内があり、先ほどまで乗ってきた飛行機に再び乗り込み大空へ。上昇したかと思えばすぐに下降する約30分のフライトでたどり着いたのは与那国空港だった。

「歓迎わーっ」ようこそ日本最西端の地・与那国島へ。の横断幕が物語るように、ここは日本で最も西にある島である。沖縄本島から500ほど離れていることに驚かされるが、もつと最西端を意識するのは台湾まで1100ほどの距離しかないことだった。ちなみに、成田から台北までの直行便は3時間35分のフライト時間なのに、対し、羽田から与那国は乗り継ぎが必要なので最短でも4時間45分かった。

与那国島は島全体が一つの自治体与那国町となっていて人口は16000人台。ここで約2年にわたり働いてきた新人保健師が今回の主人公だ。

約束の時間まで少し余裕がある。手配したレンタカーでしばらく島をドライブすると、中心部の集落で何やら干島足で歩いている人を発見した。よく見ると酪農という言葉がびつたりの中年代女性だったので正直面食らった。30分ほど観光を楽しんだところで役場の長寿福祉課を訪ねる。ところが保健師は急用で外出中というではないか。もちろん待つしか手立てはない。庁舎内の通路にある長いすに腰掛け約15分やがて小走りで役場に戻ってきた女性に声を掛けられた。彼女が今回の主人公、櫻井純子さんだった。

「ごめんさい、急な患者が出て対応していたものですから……」ハキハキした口調にニコリしたと



診療所スタッフと綿密な打ち合わせ

島の面積は28.88Km²。自転車ならは数時間で1周できる